

- 1 だいまくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは一きようめに書き、文しうは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字をけて書きはじめ、だんらく()とにきようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三ばんめのマスから書き、あたまをさかえましよう。

() 月 日 曜日

「東京と屋久島」

永田小六年 山里 亮真

「留学してみたい。父がぼくに聞いた。ぼくは転校気持ちで「うん」と言った。そして面接を受けた。部屋に入るとみんなちうして何をいえば良いのが分らなくなつた。その後白谷雲水に行つた。登つていくと木々がおいしげり日光をさえぎつた。そして岩がすべり何回か転びそうになつた。まだ少ししか登つていないのに息切がする。すると少しして周りを見た。すると岩にたくさんけむす森に着いた。本当はなにあいないのにぼくの目にはこだまがうつつた。自分の往んでいる東京にもどつた。風景が全くちがう。そして転校持ちでいつた。うんしがぼくにはだんたん重い物になつてきた。屋久島の生活が楽しみになつた。

- 4、と。は、それぞれ一字にかなえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいちくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは一きようめに書き、文しよは三きようめの二はんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくの二にぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三はんめのマスから書き、あたまをそらえましよう。

() 月 日 曜日

あれから約半年がたちここの生活が始ま
 た。すぐに思ったことがある。不更だとい
 うこと。だが仕方ないといいうことに気が
 いた。それは。建物を建てる土地がい
 る。そしてそ
 地をうやすたのために木を切る。本を切
 ること。然
 がい入る。もう考えると少しがまんを
 した方が
 来たころはこ
 ちの生活になれるた
 ために精
 いっはいだ
 った。だがある日永田岳を見た
 すると雲の間から出て日光が当た
 っていた。

ても神秘的だった。他に夏の夜空、天の川
 がは、まりみえた。空を自由に飛び回
 る島たち。川では魚がすいすい泳ぐ。ぼくは
 この島に留学で来て本当によかつた
 とも思う。だが今も思う。だが

が卒業したとき。悔いが残らずも、
 この島にいたいと思えるような生活
 したい。

この自然は地域の人がかが
 ばって守りてき
 たと思ふ。だから今、浜
 そうじなどにも積極
 的にとりくんびいく。
 前すんびいた東京は
 更利だが屋久島
 のよう

- 4、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



